

平成27年度病害虫発生予報第10号

平成28年 1 月 5 日
愛 知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	葉かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い	+
	うどんこ病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い	+
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	多い	県全域	12月下旬の発生量は多い	+
	うどんこ病	少ない	県全域	12月下旬の発生量は少ない	-
	ハダニ類	多い	県全域	12月下旬の発生量は多い	+

・防除対策

[キュウリ (施設) ・べと病]

12月1日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

換気を十分に行い、余分なかん水を避けるなど湿度を必要以上に上げないようにしましょう。同一系統薬剤の連用を避け、アフェットフロアブル、セイビアーフロアブル20などを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

本日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

10月2日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

・留意事項

キャベツでは、コナガの発生が多いほ場があります。コナガが発生しているほ場では、収穫終了後、速やかにすき込みましょう。

トマトでは、黄化葉巻病の発生は多くはありませんが、発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。タバココナジラミは低密度でもトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を媒介します。タバココナジラミの増殖が盛んになる前に防除を徹底しましょう。

トマト、ナスでは、すすかび病の発生が多いほ場があります。多湿条件下で多発するので、換気を十分に行いましょう。農薬は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。

ナスでは、うどんこ病の発生が平年に比べてやや多い状況です。うどんこ病が発生しているほ場では、薬剤防除を徹底しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台12月31日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：10% 平年並：30% 高 い：60%

〔降 水 量〕 少ない：20% 平年並：40% 多 い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多 い：20%